

2011年2月2日

2011年度一般入試前期日程における入試ミス等に関する対応について(お詫びとご報告)

京都橘大学
学長 青木 圭介

本年1月25・26・27日の3日間実施した、一般入試前期A・B・C日程において、下記のような入試ミス等が判明しました。ここにお詫びしてご報告申し上げます。

1. 試験科目「世界史B」の出題ミスについて

1月25日(火)実施の一般入試前期A日程「世界史B」の問題において、試験終了後、出題ミスが判明しました。当日の「世界史B」の受験者は、140名です。

【ミスの内容】

出題ミスの箇所は、大問Ⅱの問題文〔2〕の問6で、「17世紀末から19世紀初頭の英仏の覇権争い」の説明に関して、4つの選択肢のなかから「誤っているもの」を1つ選択する問題(配点2点)です。選択肢のうち、正解は当初②としていましたが、「① ルイ14世がたびたび企てた侵略戦争に対してイギリスは常に反フランス側に立った。」という説明文について、史実をふまえると「常に」とは必ずしも言い切れないと判断し、②に加え、①も正解とすることとしました。詳細は別紙をご覧ください。

【ミスへの対応】

これを受け、「世界史B」の採点をやり直し、①と解答した世界史選択の受験者16名について2点を加えました。一般入試前期A日程の合格発表は2月4日(金)で、可否判定前に採点訂正を行いましたので、今回、可否に影響はありません。

2. 試験科目「数学I・数学A」の解答欄ミスに伴う受験生への配点変更について

1月27日(木)実施の一般入試前期C日程「数学I・数学A」において、試験開始前に解答欄のミスが判明し、その問題を削除するとともに、数学全体の配点を見直しました。当日の「数学I・数学A」の受験者は、155名です。

【ミスの内容】

削除したのは、大問Ⅰの小問〔4〕のすべての問題(配点10点)です。3辺の長さが与えられた三角形の外接円と内接円それぞれの半径を解答させるもので、解答はマークシート方式です。今回のミスは、問題文中における解答欄のマーク数が、解答に必要な数と一致していなかった点です。

この解答欄ミスは当該試験開始前に判明しましたので、試験開始と同時に各試験室で大問Ⅰの小問〔4〕全問の削除を受験生に告知しました。なお、解答欄のマーク数が合っていなかったのは、外接円の半径を答えるものだけでしたが、直後の内接円の解答にも影響が出ると判断し、設題〔4〕の全問を削除することとしました。詳細は別紙をご覧ください。

【ミスへの対応】

採点にあたっては、大問Ⅰの設題〔4〕の配点(10点)を他の問題に配分し、100点満点で採点しました。この解答欄ミスについては、前述のとおり、その問題の削除を当該試験開始後すぐに全受験生に告知しましたが、その際、合わせて伝えるべき配点の変更について試験当日には周知していませんでした。

3. 入試問題の訂正告知に時間を要した問題について

今回、一般入試前期日程3日間の試験において、上記のほか、試験開始前に発見された配点変更等を伴わ

ない出題ミスが7カ所ありました（別紙参照）が、試験開始後すべてすみやかに受験生に周知しました。ただし、試験室によっては、若干時間を要したところもありました。

【問題の内容】

本学では、試験開始前に入試問題の出題ミスが判明した場合、試験開始後直ちに板書して訂正を告知し、板書が見えにくいと申し出た受験生に対しては、直接訂正用紙を見せて周知を図っています。今回、板書が見えにくいと申し出た受験生がいた試験室については、訂正用紙を見せて周知を図り、書画カメラ（OHC）が設置されている教室ではモニターに映して周知を図りました。すべての受験生が周知するのに15分程度の時間を要した試験室がありました。

【問題への対応】

この問題に対し、本学では訂正告知完了後に十分な解答時間が確保されていると判断し、特別措置は採らないこととしました。

ただし、受験生に不安を与えたことに関しては、事態を真摯に受け止めるとともに、大変申し訳なく、お詫び申し上げます。

【今回の入試ミス対応の経過と今後の対応について】

本学では、「入試実行・入試ミス防止マニュアル」を作成し、入試ミスの防止を図っています。また、入試ミスが生じた場合は、学長を委員長とする入試調査委員会を設置し、原因究明と適切な対応方法を検討し実施しています。

今回試験終了後に発見された出題ミスについても、マニュアルにしたがって、試験終了後直ちに予備校に入試問題の講評・分析を依頼した過程で発見されたものです。

入試ミスの調査にあたっては、試験終了後、入試本部から一連の報告を受け、1月31日(月)に入試調査委員会を設置し、ミス内容の検証とその対応を協議してきました。今後さらに、ミスの原因を調査・究明し、再発防止策に全学をあげて取り組む所存です。

■一般入試前期A日程「世界史B」出題ミス箇所

【大問Ⅱ 問題文〔2〕】

〔2〕1328年フランスで新たに **B** 朝が成立するとイギリス国王がフランス王位継承権を主張して英仏間の百年戦争が始まった。当初はイギリス側が優勢で、フランス側の混乱もありシャルル7世のときに王国は崩壊の瀬戸際にたたされたが、②農民の娘ジャンヌ＝ダルクがあらわれてイギリス軍を撃退しフランスの窮地を救った。その後フランス側が勢いを取り戻して、最終的にイギリス側の敗北に終わった。しかしその後イギリスは **C** という内乱を経て強力な王権が成立し、さらにその後、③17世紀末から19世紀初頭にかけてのフランスとの覇権争いに打ち勝った。

【設題 問6】

問6 ——— 線(3)の英仏の覇権争いについての説明として、誤っているものを、次の中から1つ選び、番号をマークしなさい。

- ① ルイ14世がたびたび企てた侵略戦争に対してイギリスは常に反フランス側に立った。
- ② イギリスはインド支配をめぐるフランスと争い、アンボイナ事件を転機にフランス勢力をインドから閉め出すことに成功した。
- ③ アメリカ独立戦争に際してフランスはまっさきに独立を承認しイギリスに宣戦した。
- ④ フランス革命からナポレオン戦争の時期にイギリスは何度もヨーロッパ諸国と対仏大同盟を結びフランスを牽制した。

■一般入試前期C日程「数学I・数学A」の問題削除箇所

【大問Ⅰ 設題〔4〕】

〔4〕 $\triangle ABC$ において、 $AB=9$ 、 $BC=4$ 、 $CA=7$ のとき、

外接円の半径は $\frac{\text{サシ} \sqrt{\text{スセ}}}{\text{ソタ}}$ であり、

内接円の半径は $\frac{\text{チ} \sqrt{\text{ツ}}}{\text{テ}}$ である。

2011年度一般入試前期日程・入試問題の訂正等について

■出題ミス(配点変更等を伴うもの)

	入試区分	入試科目	発見時期	訂正箇所	
1	一般入試前期A日程	世界史	試験終了後	25p 下から6行目 問6	別解答あり。 <u>①と②を正解</u> とする。 ①～イギリスは <u>常に</u> 反フランス側に立った。→ 正しくは ①～イギリスは <u>ほとんど</u> 反フランス側に立った。
2	一般入試前期C日程	数学	試験実施前	2p I [4]	I の設問[4]をすべて削除(解答の必要なし)。この設問以外で100点満点に配点変更。

■試験開始前に発見され、配点変更等を伴わない問題訂正

	入試区分	入試科目	発見時期	訂正箇所	
1	一般入試前期A日程	英語	試験実施前	2p 下から6行目 問1	× <u>③surrounded</u> → ○ <u>③were</u> surroundedに訂正。
2	一般入試前期B日程	英語	試験実施前	4p 下から9行目 本文	× animals <u>is</u> South America → ○ animals <u>in</u> South Americaに訂正。
3	一般入試前期B日程	英語	試験実施前	7p 下から5行目 問6	× <u>②who</u> <u>③whom</u> → ○ <u>②whose</u> <u>③for whom</u> に訂正。
4	一般入試前期B日程	日本史	試験実施前	10p 下から2行目 問6	× <u>③伊藤</u> マンショ → ○ <u>③伊東</u> マンショに訂正
5	一般入試前期B日程	日本史	試験実施前	13p 下から4行目 問16	× <u>⑤明治政府は当初、「五倍の掲示」で…</u> → ○ <u>⑤明治政府は当初、「五榜の掲示」で…</u> に訂正。
6	一般入試前期B日程	国語	試験実施前	74p 左から3行目 注2	× 注2 <u>ストレプトマイシン</u> → ○ 注2 <u>ストレプトマイシン</u> に訂正。
7	一般入試前期C日程	数学	試験実施前	8p 上から3行目	× …円内は <u>風速25km/秒以上の</u> 暴風雨となっている。… → ○ … <u>円内は暴風雨</u> となっている。…に訂正。